

【知】〈令和(5)年度			
前年度からの課題	目標〈到達指標〉	具体的な取組及び評価指標	改善策
①基礎学力の定着	①学力調査等の結果が全国比+5pt以上、1評定の児童の割合20%以下	①学力調査の結果分析を生かした授業づくり(意識調査100%) ①スタンダードの徹底と児童の振り返りを生かした授業(教員意識調査100%) ①研究主題に向けた校内研修 年間4回以上	①4月実施の学力調査等の結果、全国比より国語5.8pt、算数7.5ptであった。夏期校内研で結果分析した。 ①スタンダードの徹底…意識調査85.7% 概ね到達しているため、質の向上を目指して、生徒指導の3機能を生かすための授業チェックリストに指標を変更する。各項目…3pt以上 ①年度初めと研究授業(2回)で確認。(3回実施) ②地域教材または地域人材の活用…100% 継続していく。 ②夏期校内研にて、年間カリキュラムの見直しと今後の取組についての検討会を実施。(2回実施)
②カリキュラム・マネジメントを意識した単元構成の充実	②生活科・総合的な学習の時間を軸とした他教科との連携が図られたカリキュラムの作成	②地域教材または地域人材を活用した年間計画の作成、実施…意識調査100% ②年間カリキュラム表の見直しと授業改善に向けた協議(学期に1回)	③朝のスマールトークの実施…100% 継続していく。 ③表現活動の確保…83% 初任教員のため授業のスタンダードを身に付け、実施できるようにしていく。 ③中間指導の質の向上を目指して、継続して研究していく。 ③生活科・総合と関連させた英語表現の活用…66.6% カリキュラムマネジメントを行っていく。
③豊かな言語活動のある授業展開への改善	③英語教育によるコミュニケーション力の肯定的評価…児童90%以上	③朝のスマールトークの実施…教員・意識調査100% ③英語教育の1時間の表現活動の時間の確保(25分以上)…教員・意識調査100% ③中間指導の工夫と改善…教員・意識調査100% ③生活科・総合と関連させた英語表現の活用…教員・意識調査100%	④1年生以外毎日ログイン…100% 1年生はクロムブックの操作に慣れることを目指しており、今後毎日ログインを目指していく。 ④教員の操作への熟達度…83% ④夏期校内研において、1学期のロイロノートの活用実践を報告し合い、活用方法について協議した。また、端末の持ち帰りについての検討・協議を行い持ち帰りを実施した。
④効果的なICTの活用の促進	④授業等においてICTを効果的に活用する時間週3時間以上	④児童ログイン率…100% ④教員の操作への熟達度…肯定的意見70%以上 ④校内研修においてロイロノート研修やChromebookの操作についての研修の実施(年1回以上) ④ICT活用の実践について情報交換(年間3回以上)	③朝のスマールトークの実施…チェックリストは平均3.3ptだが低い学級もあった。項目「言語わざ」を生かして指導をしていくことを確認した。 ③日章スタンダードの実施…チェックリストは平均3pt。「児童が今日の学習を振り返り、これからの学習について考えるような場面を設けていますか。」「自分の考えや思考過程がわかるようなノートの取り方の指導をしていますか。」「」については平均2.6ptと低かった。授業改善につなぐため児童の振り返りを生かすことや児童の思考が分かるノートづくりについて改善の必要がある。 ③中間指導の工夫と改善…研究授業では意図的な中間指導を行うことができた。しかし、日常から課題に迫ることができていたのか、児童の実態を把握し授業改善を図ることができていたのか、質の向上を目指す必要がある。 ③生活科・総合と関連させた英語表現の活用…多くの学年は関連して学習することができていた。
			④児童ログイン率…毎日ログインできた学年は50%で、学年の実態により、毎日ログインすることが難しかった。気持ちメーターは毎日必ず行うなど取り組みが必要である。 ④教員の操作への熟達度…ロイロノートの熟達度は肯定的評価が100%であったが、ミライシードの使い方は、75%であった。家庭学習に利用できるよう研修を行う。 ④校内研における研修実施…新しい教員や使い方が不安な教員に対して、クロムブック、ロイロノート、クラスルームの使い方について研修を行った。(2回)また、ミライシードの使い方について全教員で研修を行った。1・2年はミライシードがないため活用できなかったが、他学年は家庭学習や隙間時間などで活用できた。 ④ICT活用の情報交換…各学期末に実施できた。長期休業中の研修で、活用方法について情報共有できたが、学級の実態により活用方法に差が出た。